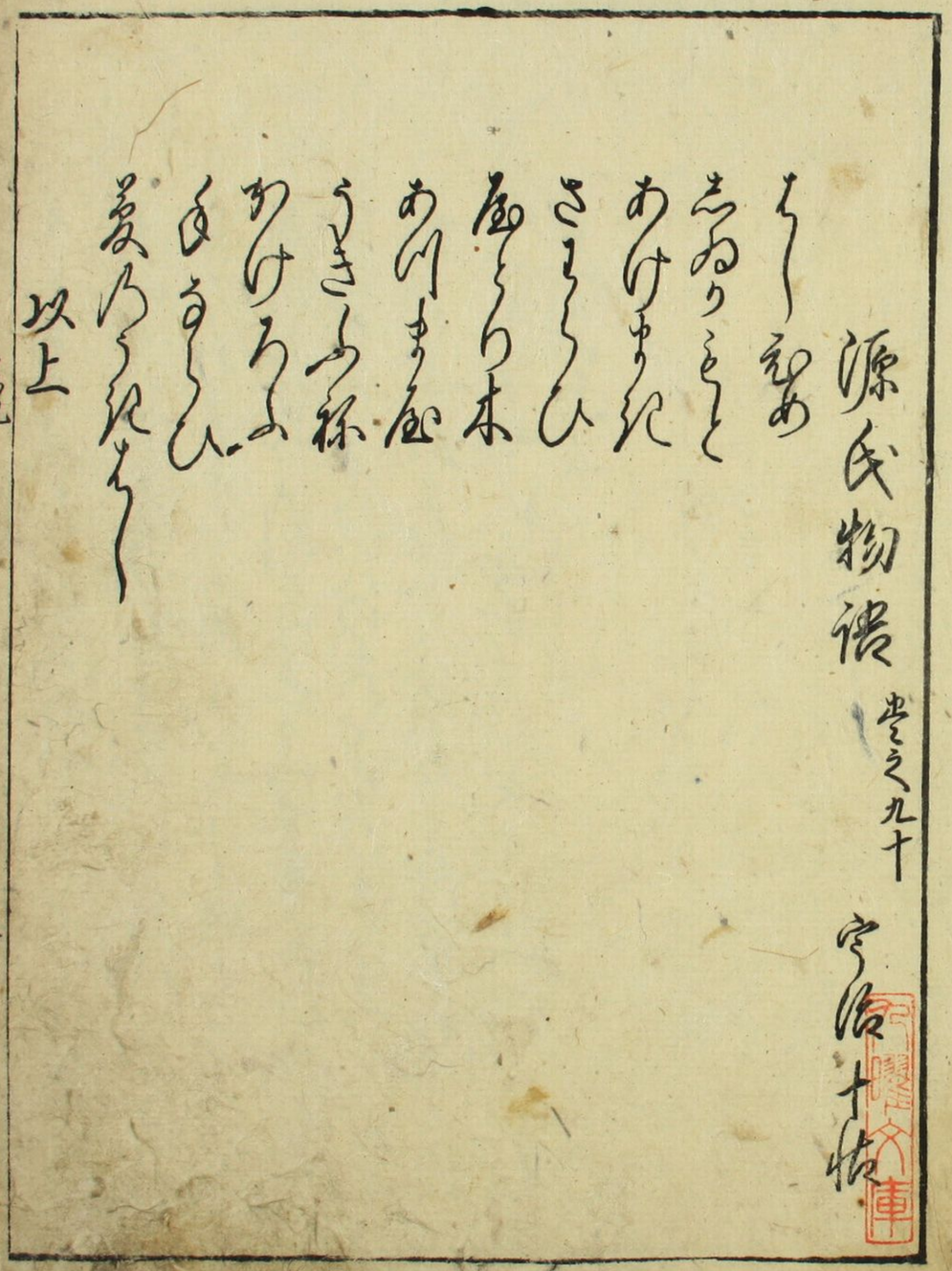
絵入

おうぎ源氏字法帖

九

源氏物語 巻之九十

宇治十帖



以上

うぢそくれ文八さうつかれたりとて九月八日
文八母八左衛のむすめ　冷泉院八月十九
宮なり　さて文八海へ　冷泉院八月十九
孫冷泉院より　大石乃海
知り　めてはハの文とうてまつる　曲なく
院よりきれまひくく　八の文と海中へ
て京の文へ　海けれ　宮院へ
まつるなり

さて娘　うつ十九月より出家
八乃文出ぬ　ひとり二人　まつ
めて海　ます　海　せまひ
うんとあげ　はあさな　八
とを　ふよ文の内　ひ
ちらく　ようてめ　も
まひ　ん　のひ
一基　ら　ん　て
泡乃　ひく
おとそ　ひさ　水
娘　そと　ら
ま　も　ら
娘　ひそ　の
やう　ふ　文

[illegible]

[illegible]

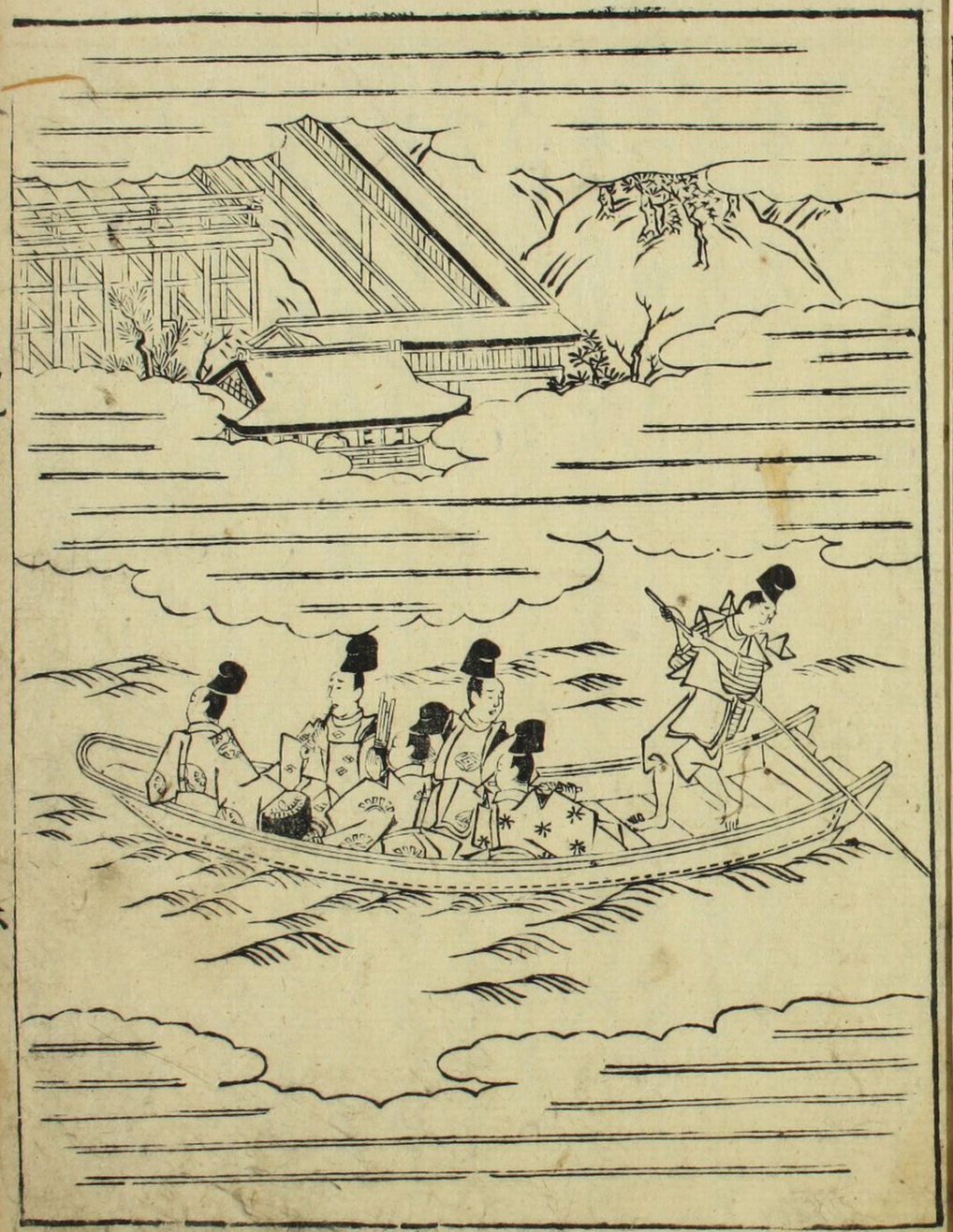
[illegible]

はるかにみやこのかたをのぞみてなにはのあしまのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ
ゆくすえのたのしみをかけてかのあまのつりをふねのあまのこゑ

[illegible]

[illegible]

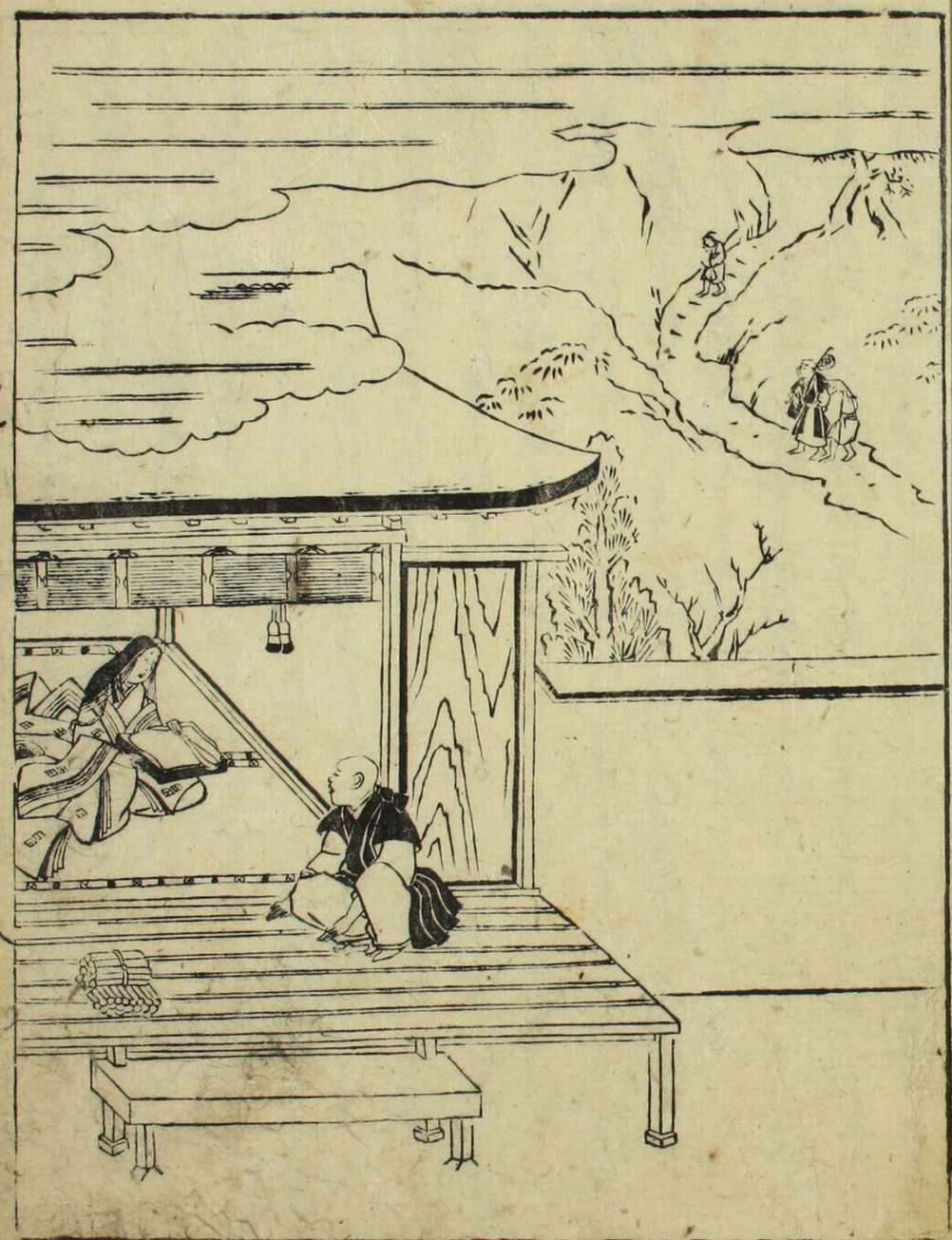
[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

中たん抱のかくれ神やうのかぶんん
仲丸 たゝせの秋秋ゝうわうら橘のたゝけ神と結ゝうゝ
物言のゝゝゝ人ゝ人ゝ抱あゝれゝ
ゝ月ゝ月ゝの秋ゝゝゝゝゝゝ車ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

このいつくしきていしゃのもとにたちゆきて
雲さかゆるみどりのふるえだにはるかぜをふく
はるかぜ
あつきのくもらしたるひぐらしのこえやまに
うちうちふくこのりのみちしるべのこえやまに
しとどうちやりて
ゑぞうの日新したるぬまのふじにてはるかぜ
かすみにみなとひらいてくるあるよ
うつるかしこもかすみにうつるけうるあるこまつ中
ゑぞうのこまつ中
ゑぞうのこまつ中
とあるを
車とあるにて
乃ちのあるかりしいまさ
あくまのうまりやうあくまのうまりやうあくまのうまりやうあ

[illegible]

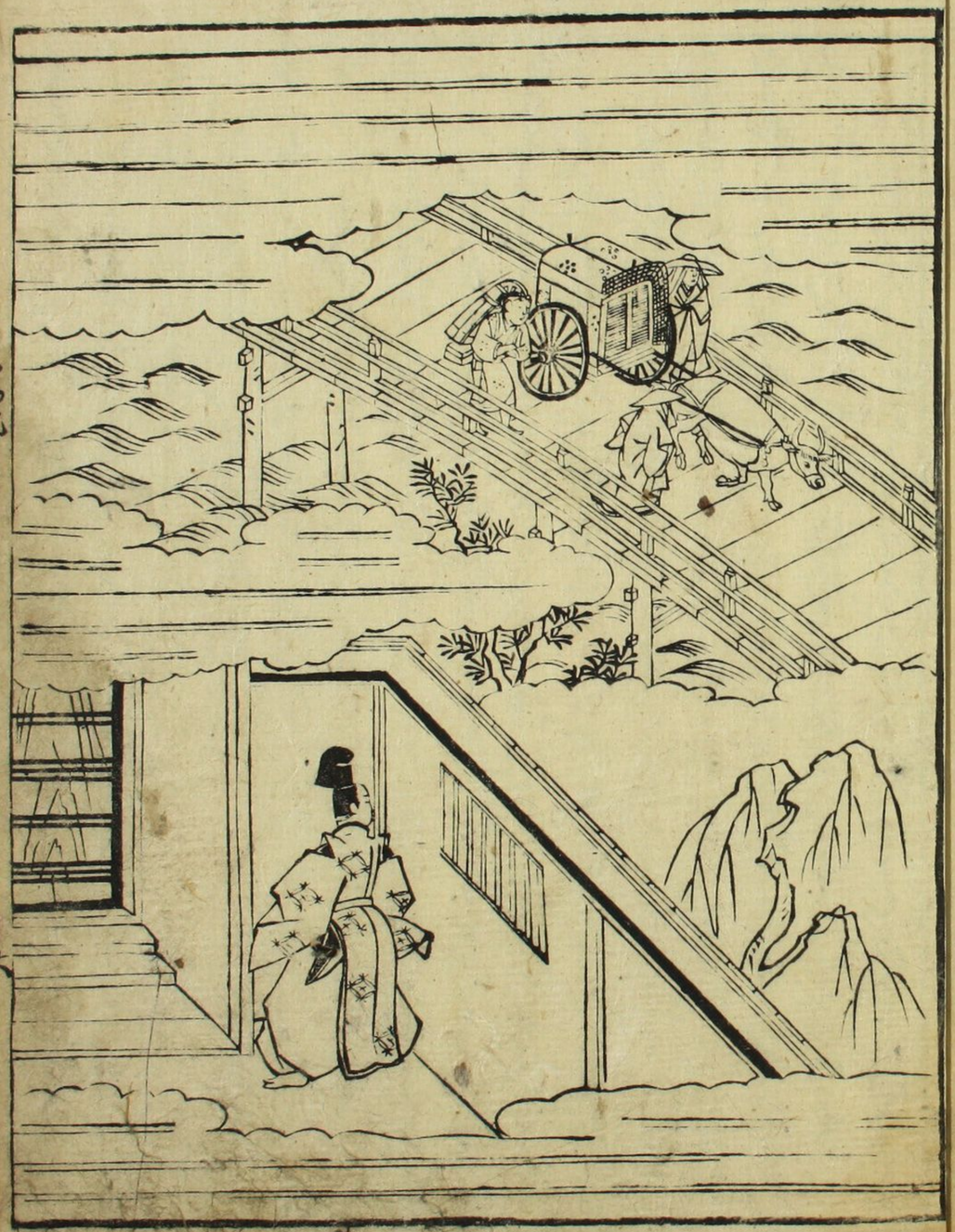
中宮の御方の日ごろと見えさせたまへるやうにわたり
[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四

十四のとし九月の比御母堂にしたがひまいりて
嵯峨にまうでしてかの中納言殿の
こもりゐたまへるをたづねまうでたまへば
あるじの乃尼君なほ旬の気色にて
御
琴をなぐさめとしたまへるなりけり
かの乃尼君の乃たまへる
そうもとりもちぬ
久敬九月十六日の夕べ八時の比まうでたまへるに
廿三夜二つ星のいでたるを山里にてんもく
人々つまとりまうでかくしてかくとなげくよあるとか
ばかりにてこいねんとうばいまひて中宮殿いとあと
あかりをかかげたまひてかの月の出でたまへるを見
ぬさしてあるさかりにもまひくいでたまへる
よりはるかにまさりたまへる
けしきのさまあてやかなるをのこどもなどかくの
中宮のまへにまうでつかうまつりゆきてかの
ようにてみまうけりけり白雲九月廿日
中宮
ぬるかぬまの雲九月廿日
たのたのしのしらぬ秋の夜
大そうにはまうでたまひ
まうでたまへる乃出でたまへる中宮
山里九月のけはひもかくばかりあはれ秋の風
みのたのたのしのしらぬ
乃はうにはいかなるかはやうにはひ出でたまへる
秋月
琴
とんのきくみもぬ
よきうにはうつくしうとうとうとせたまへる
うるはしうもまた毎月
廿三夜の月
廿三夜の月
中宮
山里



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

持之